

株 主 の 皆 様 へ

第 **111** 期
中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

 山陽特殊製鋼株式会社

証券コード | 5481

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第111期第2四半期(2022年4月1日から2022年9月30日まで)の営業の概況等をご報告申し上げます。

営業の概況

当第2四半期の特殊鋼業界は、建設・産業機械向けの需要は概ね堅調に推移しましたが、半導体不足や中国の都市封鎖に伴うサプライチェーンの混乱を受けた自動車減産の継続などにより、特殊鋼熱間圧延鋼材の生産量は前年同期を下回りました。

このような中、当社グループの売上高は、スウェーデンの連結子会社Ovakoの決算期変更影響^(注1)や自動車減産の影響はありましたが、鉄スクラップサーチャージの適用等に伴う販売価格の上昇などにより、前年同期比121億円増の1,954億円となりました。

利益面では、鉄スクラップをはじめとする原燃料価格の上昇やOvakoの決算期変更影響はありましたが、鉄スクラップサーチャージの適用等に伴う販売価格の上昇や構成の高度化によるマージンの改善、Ovakoの収益改善などにより、経常利益は、前年同期比32億円増の137億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比26億円増の99億円となりました。

中間配当につきましては、当第2四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益の実績に基づき、2022年7月28日に公表した前回予想の1株につき45円から10円増配し、中間配当としては過去最高となる1株につき55円とさせていただきます。



代表取締役社長 宮本 勝弘

今後の見通し

今後につきましては、半導体不足等による自動車減産の継続やインフレ等による世界経済の減速が懸念されることに加え、円安の影響もありエネルギーコスト等が増加することが見込まれます。

このような中、当社グループといたしましては、サーチャージ適用拡大等を通じて適正なマージンの確保を図るとともに、海外事業の収益力強化に努め、事業基盤の強化を図る方針です。

これらの状況を踏まえ、2022年7月28日に公表した通期の業績予想を上方修正し、通期の連結経常利益200億円を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年11月

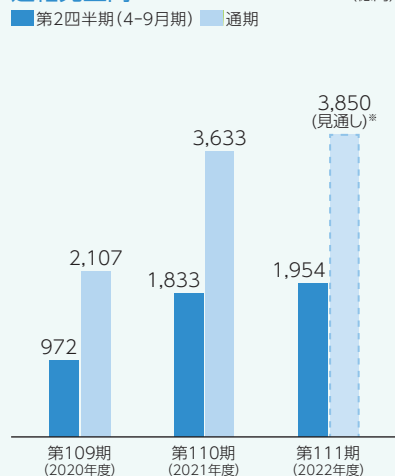
(注1) 2022年3期よりOvakoの決算期を従来の12月から当社単独と同じ3月へ変更し、同社は2021年1月～2022年3月の15ヵ月決算を行いました。

これにより、前年同期の連結決算値には、2021年1月～9月期の同社損益およびのれん償却費を繰り込んでおり、そのうち、2021年1月～3月期の同社損益(売上高304億円、経常利益25億円)およびのれん償却費△7億円を決算期変更影響としております。

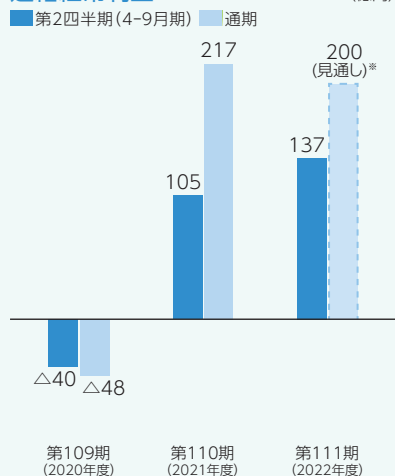
(注2) 本報告書に記載している業績予想および配当予想につきましては、策定時点(2022年10月31日)において入手可能な情報に基づいて当社グループで判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績等はこれらの予想数値と異なる場合があることをお含みおさください。

業績ハイライト

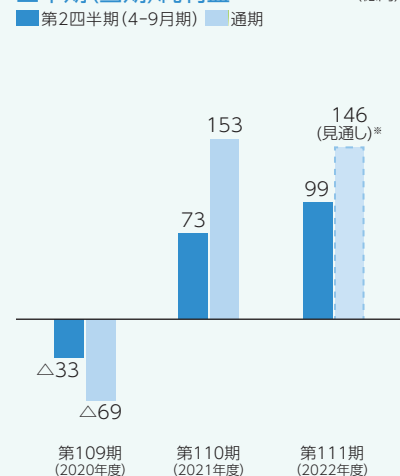
連結売上高



連結経常利益



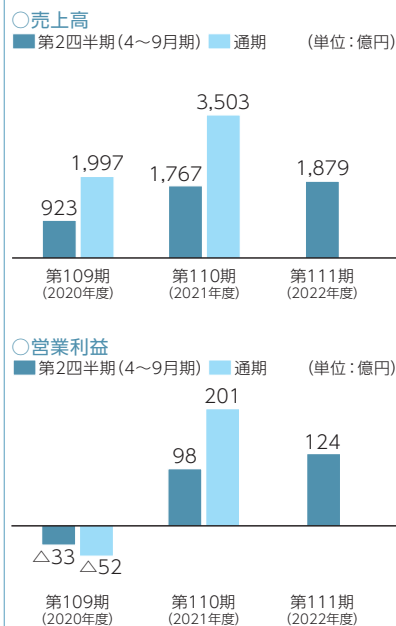
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益



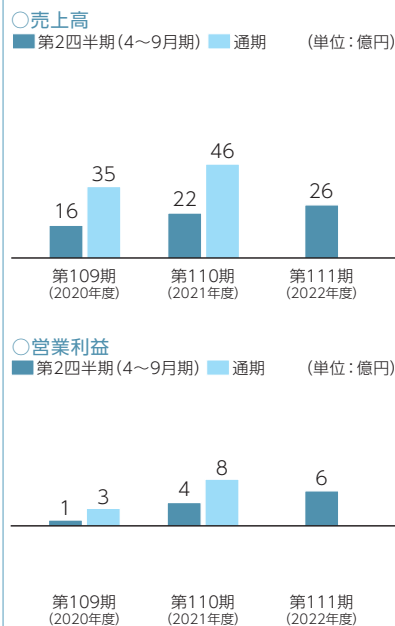
※2022年10月31日公表

セグメント情報

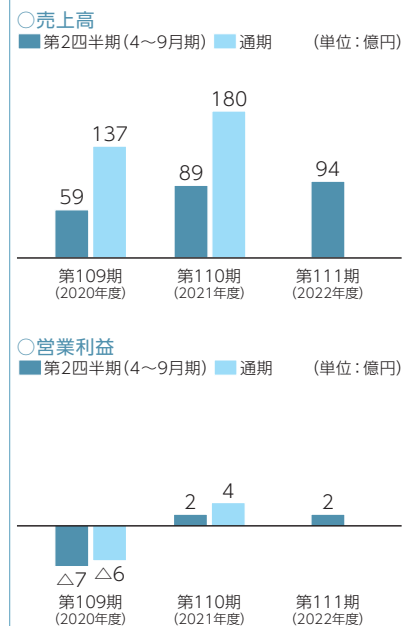
鋼材事業



粉末事業



素形材事業



第2四半期決算の概要

連結損益の概要

(単位：億円)

	第111期第2四半期 (2022年度上期)	第110期第2四半期 (2021年度上期)	増減	増減率(%)
売上数量(千トン)	812	1,079	-267	-24.7
売上高	1,954	1,833	+121	+6.6
営業利益	132	104	+28	+26.7
経常利益	137	105	+32	+30.8
内、当社単独	70	52	+17	+33.6
内、Ovako	89	68	+21	+30.6
内、SSMI	△2	2	-3	-
内、のれん償却費	△14	△20	+6	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	99	73	+26	+35.4
のれん償却費を除く親会社株主に帰属する四半期純利益	113	93	+20	+21.5

連結貸借対照表の概要

(単位：億円)

	第111期第2四半期末 (2022年9月30日)	第110期期末 (2022年3月31日)	増減
資産の部			
流動資産	2,372	2,205	+167
固定資産	1,578	1,574	+4
資産合計	3,949	3,779	+170
負債の部			
流動負債	1,380	1,302	+77
固定負債	442	488	-47
負債合計	1,821	1,791	+30
純資産の部			
株主資本	1,984	1,910	+74
その他の包括利益累計額	125	60	+64
非支配株主持分	20	19	+1
純資産合計	2,128	1,988	+140
負債純資産合計	3,949	3,779	+170

通期業績予想および配当予想

通期業績予想

(単位：億円)

	今回修正予想 (2022年10月31日公表)	前回予想 (2022年7月28日公表)	増減
売上数量(千トン)	1,599	1,640	-41
売上高	3,850	3,830	+20
営業利益	196	155	+41
経常利益	200	160	+40
内、当社単独	105	85	+20
内、Ovako	120	105	+15
内、SSMI	0	0	-
内、のれん償却費	△29	△29	-
親会社株主に帰属する当期純利益	146	115	+31
のれん償却費を除く親会社株主に 帰属する当期純利益	175	144	+31

配当予想

(単位：円)

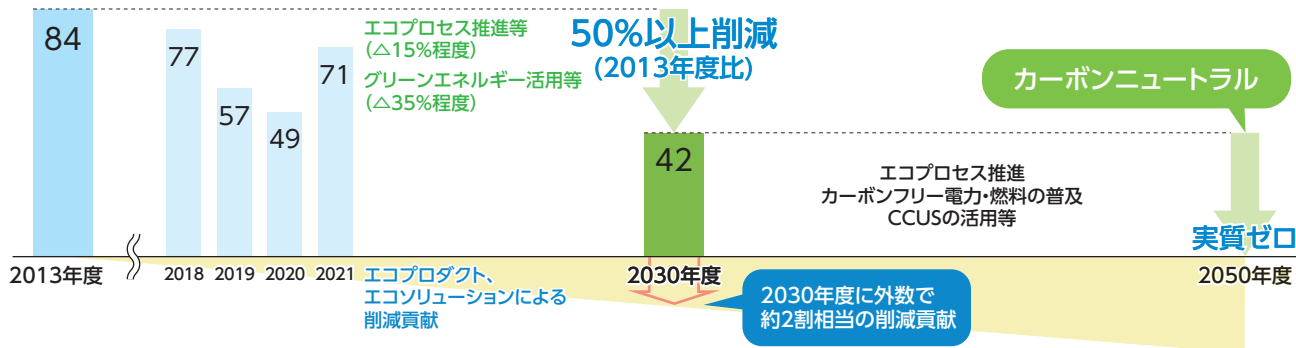
	年間配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想(2022年7月28日公表)	45.00	30.00	75.00
今回修正予想(2022年10月31日公表)		30.00	85.00
当期実績	55.00		
前期実績(2022年3月期)	45.00	45.00	90.00

2050年カーボンニュートラルに向けた取り組み

2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップ

当社CO₂排出量

(万t)



リジェネレーターを採用した省エネ加熱炉

エコプロセス

製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進



グリーンエネルギー活用

カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用
※2022年度から再エネ由来電力の一部活用を開始



長寿命風力発電用軸受鋼の開発

エコプロダクト

製品を使用する段階でCO₂排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進



海外グループ会社への技術展開

エコソリューション

エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOvako、SSMI等の海外グループ会社に展開

GXリーグ基本構想への賛同

GXリーグとは、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、GX(グリーントランスフォーメーション)への挑戦を行うプレイヤーと共に、経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場として設立されたものです。

当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同しています。



監査等委員会設置会社に移行

当社は、経営の意思決定の迅速化を図り、取締役会における経営の基本方針等の議論をより充実させるとともに、取締役会の経営に対する監督機能を強化すること等を目的として、監査等委員会設置会社に移行しました。

引き続き、株主や取引先をはじめとするステークホルダーの皆様からの負託と信頼に応え、当社グループの健全で持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るために、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組んでまいります。

国内鉄鋼メーカーで初めて

風力発電重要部品用鋼材のサプライヤーとして「TPG認証」を取得

TPG認証とは、輸送および発電関連の製品の製造に関する要求事項を満たしていることを証明する米国の認証制度です。すでに一部の風力発電機メーカーが、サプライヤーに対するTPG認証取得の義務付けを決定しています。

当社は信頼性の高い製造技術およびその品質管理体制について、鉄鋼製造分野のTPG要求事項を満たしていることが認められ、国内鉄鋼メーカーとして初めてTPG認証を取得しました。これにより、風力発電機のベアリングをはじめとする重要部品に、TPG認証が必要となる場合においても、素材として当社の特殊鋼材料を使用することが可能となります。



カーボンニュートラル社会の実現に向けて風力発電の導入拡大が見込まれています。

欧州子会社Ovakoと欧州軸受大手SKFが協働し、

CO₂排出量を標準品から90%削減したベアリングの生産を実現

Ovakoは2022年1月からカーボンオフセットプログラムを活用したカーボンニュートラル体制に移行しています。そのOvakoが製造したカーボンニュートラル鋼材を使用し、ネットゼロエミッションを達成したSKFのGothenburg (ヨーテボリ) 工場で、標準品に比べてCO₂排出量が90%少ないベアリングの生産を実現しました。

OvakoとSKFは、持続可能な社会への早期移行に向けてネットゼロカーボンのベアリング生産を目指しており、このたびの成果はその実現に向けた大きな一歩となります。



OvakoのMarcus Hedblom CEO(左)とSKFのRickard Gustafson CEO(右)

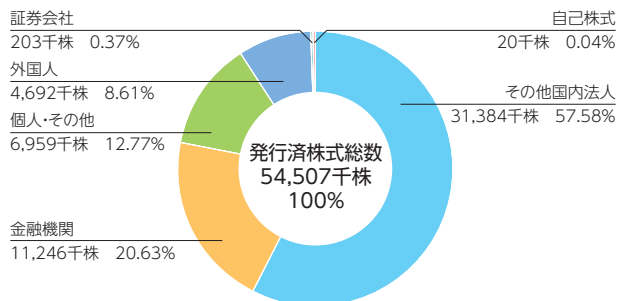
株 式 情 報

■ 株式の状況

2022年9月30日現在

発行可能株式総数…………… 94,878,400株
発行済株式の総数…………… 54,507,307株
株主数…………… 10,670名

株式の所有者別分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本製鉄株式会社	28,863	53.07
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,852	7.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,366	6.19
山陽特殊製鋼共栄会	2,672	4.91
山陽特殊製鋼従業員持株会	825	1.52
株式会社三井住友銀行	639	1.18
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	621	1.14
株式会社三菱UFJ銀行	569	1.05
三井住友信託銀行株式会社	566	1.04
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	532	0.98

※持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主メモ

事業年度 4月1日から3月31日まで

定時株主総会 6月中

基準日 3月31日

剰余金の配当の 中間配当 9月30日

基準日 期末配当 3月31日

公告方法 電子公告

【アドレス】 www.sanyo-steel.co.jp/
事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、
日本経済新聞に掲載して行います。

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場
(証券コード 5481)

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社

(事務取扱場所) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(お問合せ先) 【フリーダイヤル】0120-782-031
受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)

(インターネットホームページURL) (よくあるご質問(FAQ))

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>



https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

